

みんなの堺

第 61 号

発行 平成29年12月
発行 堺市民生委員会
児童委員連合会
住所 堺市堺区南瓦町2番1号
電話 072-232-5420
発行 堺市民生委員会
責任者 児童委員連合会
会長 加納 剛



支えあう 住みよい社会 地域から

特集:委員長に聞く民生委員制度創設100周年



しょうかく かぶとがた はにわ
衝角つき冑型埴輪
(今から1550年前)

古墳時代(こぶんじだい)の冑(かぶと)のかたちをした埴輪(はにわ)だよ。サカイトケルくんがかぶっている冑(かぶと)と同じなんだ。

いたすけ古墳(堺市北区)というところから発見されました。いまから60年くらい前、いたすけ古墳はこわされようとしていましたが、市民のみなさんの活動により保存されることになりました。(堺市博物館)

堺市博物館公式キャラクター
サカイトケルくん
©YABUUCHI Satoshi



これまでの100年 これからの100年

今年、民生委員制度創設から100年になる節目の年でございます。

100年と一言で申しますのは簡単ですが、同じ制度を100年間続けられたのは国家制度として国、都道府県、市町村の行政職員、そして社会福祉協議会職員の皆様のご協力がなければ我々の先人の思いと努力だけではこの制度が100年も続けられなかったと思います。

少し横道に逸れますが、我が国には郵便制度という制度がございます。これは民生委員制度よりも長く続いています。本当に素晴らしい制度だと思います。わずかな料金で冬の雪深いところでも戸別配達をしていた

だけの、すなわち配達職員の方は地域の事情に詳しいと言えます。

我々民生・児童委員も高齢化、なり手不足という大きな壁があります。これからの100年を考えま

すと、我々だけでは地域の見守りなどに少なからず支障が出てくると思います。そこで今、全国の一部の市町村では、民生委員協力員制度を設けて地域の見守りなどの活動をされていると報道などで聞き及んでいます。堺市においても、民生委員協力員制度について考えることも必要かと思ひます。

堺市民生・児童委員各位のますますのご健勝とご多幸を願って結びといたします。

連合会副会長 梁間 久夫





これからの堺市の地域福祉について

堺市健康福祉局長寿社会部 部長 **山本 甚郎**

民生委員児童委員の皆様には、平素より地域でさまざまな生活課題を抱える市民の良き相談者・支援者として活動をしていただき、厚くお礼申し上げます。

急速な少子高齢化が進展するなか、私たちの周りでは、複合的な課題を抱える世帯の増加や社会的孤立など、既存の枠組みでは対応できない課題が顕在化しております。本市におきましても、このような課題に対応するため、今年度、平成26年3月に策定した「堺あったかぬくもりプラン3」の中間見直しを行いました。その中で、区の相談機関のネットワークづくりを強化することで、包括的な相談支援体制や課

題解決の仕組みづくりについて検討し、誰もが安心して暮らせるまちの実現に向けて邁進していく所存でございます。

民生委員児童委員の皆様には、日頃から、市民に一番近いところで見守り活動を行っていただき、行政や関係機関などへの橋渡しとしての役割を担っていただいていることに改めて感謝の意を表しますとともに、今後もより一層のご活躍をご期待申し上げるところです。引き続き、本市の地域福祉の推進にお力添えを賜りますようお願いいたしますとともに、堺市民生委員児童委員連合会のみずますのご発展と、会員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

会長のひとりと シリーズ③

要援護者ファースト

堺市民生委員児童委員連合会 会長 **加納 剛**

昨年12月の一斉改選から早1年が経ちました。その時初めて厚生労働大臣から民生・児童委員の委嘱を受けられた新人委員の皆さまも、ほつほつこの民生・児童委員の世界が分かってきて、活動に拍車がかかってきたのではないかと思います。

「地域で一番身近な相談者・支援者」として、しんどいけれどやりがいがあるこの福祉ボランティアの世界にどっぷり身をおいてほしいと期待しています。老婆心から申し上げますと、どの世界においても慣れてきた頃に失敗が起こりやすいと言います。しっかりと自分の「身の丈」をわきまえ能力以上の無理は慎んで、委員長や先輩に相談したり行政や専門機関に繋ぐことで問題解決の手法を学んでいただければ良いのではないのでしょうか。

今年、民生・児童委員の世界は制度創設100周年記念一色でした。7月には天皇、皇后両陛下のご臨席のもと「東京ビッグサイト」において1万

人規模の記念大会が開催され高揚感あふれる大変な盛り上がりとなりました。また、全民児連や各自治体が推進する「活動の見える化」「活動の可視化」への動きが活発になってきたことやマスクのニュース取り上げ、露出増加も相まって徐々に社会の認知度が高まってきたように思えます。

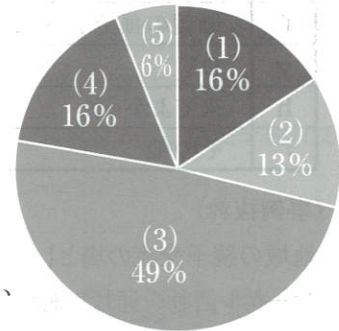
さて、時は移っても残念ながら社会には困難な問題が山積です。貧困、孤立、認知症、虐待など取り組むべき課題は深刻化しています。そして社会には救いを求める人や救いの必要な人、いわゆる「要援護者」が多くいらっしゃいます。このような方々に少しでも役に立つことができればこんな幸せなことはありません。民生・児童委員に対する社会の関心と期待の高まりに向き合い応えていきたいと強く念じています。トランプ大統領がアメリカファースト、小池都知事が都民ファーストなら、私たちは「要援護者ファースト」の信念を持って頑張りましょう。

特集 委員長に聞く民生委員制度創設100周年

このアンケートは、『みんじれん堺』第61号を編集発行するにあたり、平成29年が民生委員制度創設100周年となることから、本誌特集のテーマに取り上げ、各校区民生委員長のご意見を伺い集計しました。(回収率 73.1%)

1. 民生委員制度創設100周年を迎える本年、現在、民生・児童委員として活動されていることについて、どのように思いますか？ 1つだけ選んでください。

- (1) 節目の年に活動していることにやりがいを感じる。
- (2) たいへんな年に民生・児童委員をしていて重い責任を感じる。
- (3) 改めて民生・児童委員の使命と役割の重要性を再認識している。
- (4) 特に意識はしていない。
- (5) その他



・先人の方々のご功績に尊敬と感謝の思いを新たにいたしました。しかし、この先、今の民生委員制度が続いていけるかと、危機感を強くしました。

2. これまで民生・児童委員の活動の中で、特に印象に残っていることは何ですか？ (複数回答可)

(1) 高齢者対応

項目	件数	割合
(1) ひとり暮らしの高齢者	61	(総括) 常によりそう姿勢と行動
a 認知症の事案	15	24.7%
b 感謝、信頼の言葉	11	18.0%
c 孤立死	9	14.8%
d 日常支援	9	14.8%
e 救急車対応、入院	5	8.2%
f 施設入所手助け	5	8.2%
g 情報収集	2	3.3%
h その他	5	8.2%

(事例抜粋)

- ・1月の寒い時期に、認知症でひとり暮らしの女性宅、電気・ガスが止められていた。
新聞が溜まっているのに気づき関係機関と対応、早期発見で事無きを得た。⇒現在はグループホームに入所。
- ・ひとり暮らし認知症高齢者のゴミ屋敷化…親族とコミュニケーションをとることが困難で苦勞した。
行政からの支援もあり解決したが、ご近所の方たちの協力も力になった。
- ・高齢者の孤立死
①定期的に見守り活動をしていたが防げなかった……。②なかなかコンタクトがとれなかった(反省)。
- ・お元気ですか訪問やサロン活動を通じて、ふれ合う機会が多く、ねぎらいや頼りにされている言葉をいただきやりがいを感じる。
- ・救急車対応
熱中症、転倒骨折、自宅での怪我や骨折、脱水症状などにおける救急事態への対応・支援。

特集

委員長に聞く民生委員制度創設100周年

(2) 子育て支援

(2)	子育て支援	29	(総括) 次世代への期待
a	定期的な支援活動	8	8
b	情報交換・交流の場づくり	4	4
c	行政への取り次ぎ	4	4
d	子どもとのコミュニケーション	2	2
e	感謝の言葉	2	2
f	母親の孤立、不安	2	2
g	DV	1	1
h	来てよかった	1	1
i	その他	5	5

(事例抜粋)

- ・地域の親子交流の場として子育てサークル活動を実施。
- ・サークル活動を通じて地域コミュニティの広がりができた。
- ・母親同士の情報交換の場として有効に機能している(子育ての悩みなどの話し合い)
- ・事案により行政への連携など相談できる取り組みに努力している。

(3) 障害者支援(22件)・・・(総括) 自立支援への取り組み

a.生活支援(4) b.日常的な交流(4) c.行政への依頼・連絡(2) d.その他(12)

(事例抜粋)

- ・母親を亡くし、兄夫婦から経済的虐待を受けていたひとり暮らしの知的障害者を作業所に通わせる。
- ・精神障害者による近隣での暴力行為や異常行動により警察・行政が介入し精神病院へ措置入院。
- ・精神障害者による近隣での暴力行為や異常行動などへの対処が難しいのが現実。
- ・行政担当者との継続的な連携が不可欠。
- ・障害者分野の幅広さに驚き、学ばなければ活動ができない。
- ・関連する施設との交流や講演などを受講し、障害者に対する意識を高める

(4) 介護問題(19件)・・・(総括) 見放される親、利用されない社会保障

a.行政へのつなぎ(5) b.老々介護(5) c.認定や手続き(3) d.その他(6)

(事例抜粋)

- ・徘徊する認知症の母親を家に閉じ込め虐待していた。⇒行政に相談し改善に向かう
- ・要支援2の妻が要介護4の夫を介護するも、生真面目な妻が先に倒れる。
- ・介護認定、介護保険の申請、緊急通報システムなどの相談、支援で感謝された。
- ・高齢者の増加とともに、介護問題は避けられない。
- ・見守り、訪問活動で早期に状況を把握し行政へつなげる。

(5) 児童虐待(13件)・・・(総括) 居場所のない子どもたち

a.行政、関係機関との連携(2) b.施設への収容(2) c.その他(9)

(事例抜粋)

- ・内縁の夫が子ども(3歳・5歳)に暴言、暴行⇒警察・行政機関との連携で対処
- ・親が子どもの面倒を見ない、食事も摂れていない居場所のない子どもたちがいる。
- ・学校での様子を知るためにも、民生・児童委員の学校訪問が必要。

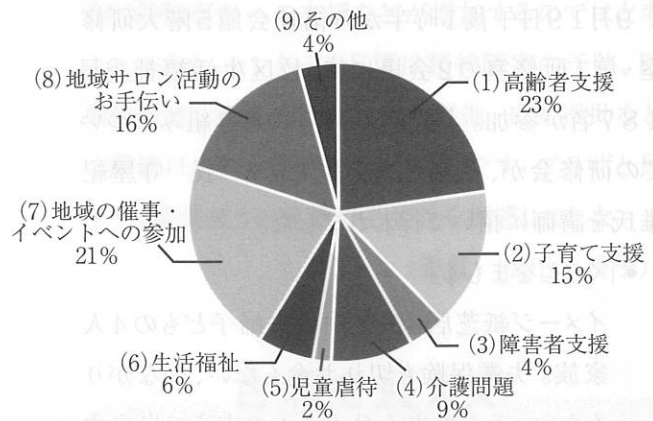
委員長に聞く民生委員制度創設100周年

特集

3. 民生・児童委員の活動のなかで、現在、主にどのような活動をされていますか？（複数回答可）

- (1) 高齢者支援 (2) 子育て支援 (3) 障害者支援
- (4) 介護問題 (5) 児童虐待 (6) 生活福祉
- (7) 地域の催事・イベントへの参加 (8) 地域サロン活動のお手伝い
- (9) その他

- ・民児連の活動
- ・ひとり暮らし高齢者へお便り届け（1回/月）
- ・子育てサークルの運営
- ・校区サロン喫茶の運営
- ・校区認知症キッズサポーター養成講座への参加
- ・共同募金への協力
- ・福祉委員会との共同活動
- ・委員長としての仕事
- ・校区自治会、福祉委員会の活動（当て職）



4. 校区内での対応案件で、解決が困難であったことや対処方法で悩んだことがありましたか？

- (1) あった (35)
- (2) なかった (26)

5.(1) 解決が困難であった内容や対処方法で悩んだことはどんなことですか？

(項目抜粋)

- ・避難行動要支援者への対応 (3)
- ・ゴミ屋敷に関する件 (3)
- ・夜間、休日時の相談対応 (2)
- ・当事者との連携がうまくいかない (2)
- ・不登校の子どもとの関わり (2)
- ・障害者などの孤立死
- ・老々介護で認知症
- ・軽犯罪に至らない近所迷惑高齢者 (対応中)
- ・生活保護家庭の日常生活支援
- ・ひとりになった精神障害者の世話
- ・妄想の精神障害者対応 (未解決)
- ・引きこもりの精神障害者対応
- ・DV家庭の対応
- ・介護認定の申請拒否
- ・ケアマネの訪問拒否
- ・生活保護の申請拒否
- ・その他

(2) そのことで行政・公的機関との連携はどのように行いましたか？

対応事案は多岐にわたっており、担当委員をはじめ行政や関係機関との連携、地域の人々の協力で解決に向けて努力され、多くの事案が解決されています。また、個別事案の内容によっては、長期にわたり対応している課題もあります。



専門委員会だより

生活困窮者支援

生活福祉委員会報告

9月19日午後1時半から福祉会館5階大研修室・第1研修室の2会場にて、校区生活福祉委員187名が参加。「すてっぷ堺」の取り組みについての研修会が、生活仕事応援センター長 守屋紀雄氏を講師に招いて行われました。

●「くらしをまもる」

イメージ紙芝居（失業中の夫婦子どもの4人家族。失業保険も切れお金もない、つながりもない、そんな主人公が人々の支えで自立するまでの分かりやすく、楽しい内容）

●「生活困窮者自立支援法」の内容・背景・目的

●「すてっぷ堺の取り組み状況と支援内容、実践」

上記の内容で、生活困窮者への気配り、行政への積極的な係わりを再認識できました。

（副委員長 伊吹 肇）



研修会に参加して

主任児童委員会報告

平成29年度堺市主任児童委員会の研修会は、9月26日柏原市にある大阪府立修徳学院への施設訪問を行いました。皆さんも新聞報道でよくご存



知だと思いますが、府下の児童虐待などが近年増加する傾向にあり、家庭内や地域における子どもたちへの支援は今まで以上に多様化し、さまざまな課題に直面している時代背景があります。

そのため我々に求められる役割を鑑み、保護者も含めた地域における支援のあり方について主任児童委員として考えることを目的とし、主任児童委員62名が参加して開催しました。

施設は児童自立支援施設で、非行や家庭環境その他の理由により、生活指導を要する子どもたちに対して、心身の健全な育成を図り、自立のための支援を行う施設です。

修徳学院では家庭的な雰囲気の中、子どもたち（ほとんどが中学生）が健全な社会生活を営むために必要な人格形成や自立心の修得をめざし、専門性を持った夫婦職員が児童とともに暮らすなかで、自らの子育ても含む深い人間関係（共感関係）を築くことを指導の基盤としています。

1時間半の座学（施設紹介・取り組み）の後、施設見学により参加者一同、深い感銘を受けました。

（主任児童委員 田谷 孝壽）

「一日里親事業」に参加して

児童福祉委員会報告

毎年「一日里親事業」を児童福祉委員と主任児童委員が実施しています。児童養護施設に入所している幼児を対象に親代わりとなって、野外活動をおこなっています。

9月20日に昨年と同じ天保山ハーバービレッジ(海遊館・マーケットプレイス)へバスで3施設の3歳から5歳の幼児21名と行きました。バスの中では、最初は緊張のせいか静かでしたが、しばらくすると元気な声が響くなか、海遊館に到着しました。

子どもたちの小さな手が里親の手をしっかりとつないで、ジンベイザメやペンギンなどを見たり、お弁当やおやつを食べ、なかよし親子となりました。子どもたちとかかわっていると、時折見せる笑顔や、ほわっとした目つきに安堵し、楽しいひとときを過ごしました。3時半頃、各施設に送り届け、無事帰路に着きました。

今回、この事業に初めて参加し、子どもたちの抱える問題はさまざまであり、それを乗り越えて幸せな人生を送ってほしいと願うとともに児童福祉委員としての役割も重大であり、今後こういった形で支援できるのか考えていきたいと思えます。

(委員長 柳本 正美)

堺市立健康福祉プラザにて

障害者福祉委員会報告

8月2日、障害者福祉委員会の委員12名は、堺市立健康福祉プラザを訪問し、見学と職員からの講義を受けました。健康福祉プラザの中には12のセンターがあり、障害のある方々の社会参加および地域生活を支援する総合的な拠点施設です。

1部は堺市発達障害者支援センターの安居玲子氏から発達障害についてうかがいました。発達障害は知的発達に遅れがあるとは限らないので

気づくことが難しく、社会性やコミュニケーションが劣ると考えられるので、周囲が理解し適切にサポートすることが大事であると、うかがいました。

2部はこころの健康センター永井義雄氏の講義でした。精神疾患の患者数は外来患者をみると15年前の倍に増えています。これからは、ギャンブルなどの依存者への支援などが増加するのではと考えられます。センターの目標は精神障害の予防、医療の推進、患者の社会復帰の促進、自立援助など広範囲にわたっているということです。プラザと民生・児童委員との連携の必要性を痛感しました。

(委員 信田 禮子)

古希を迎えて

高齢者福祉委員会報告

織田信長は、「人間50年」と謡い舞い戦(いくさ)に行ったのは1560年のことだそうだ。それから450年が過ぎ、日本人の平均寿命が男女とも80歳を超え、今は「人生100年時代」だそうだ。

現在しきりに2025年問題が叫ばれている。堺市でも新たに14万人が75歳以上になり、介護保険に要する費用も1,000億円を超えると予想されている。高齢者福祉委員会も介護保険認定者(5万人から6.6万人に増加)を、ひとりでも減らすべく行政と協働していかなければならない。

そんな中、私は70歳になった。最近特に体重が減少したり疲れやすくなったりして『フレイル』の前段階かなと思う時があるのだが、家族や周囲の人に迷惑をかけることなく心身共健康に留意し、また、私の置かれている立場を理解して天寿を全うしたいと思っている高齢者福祉委員会の一員である。

なお、高齢者福祉委員会研修を12月15日に開催します。

※フレイル：日本語訳では虚弱、加齢により心身の衰えから最後は「要介護」に至る状態のこと。

(委員長 小寺 三郎)

校区めぐり

ふれあう体育大会

三宝校区 琴谷 達郎

当校区は、住宅やマンションが増え、小学校は大規模校になっています。

そのなかで、連合町会会長は福祉委員長もされ、各町会にも、福祉には大変理解をいただいています。

11月5日には、連合町会主催の親睦体育大会が開催されました。



各町会チームが紅白に分かれ、幼児レース、借り物レース、紅白玉入れなどをおこない、「楽しかった」「参加賞をもらってうれしかった」との参加者の声、大いに盛り上がりました。

いきいきサロンやふれあい昼食会などの活動は、校区にある老人施設と包括支援センターおよび病院の協力をえて実施しています。

三宝校区民生・児童委員は、地域の協力をいただき、今後とも活動に邁進していきます。

盛大に盆踊り

錦西校区 宮里 眞澄

錦西校区の最大のイベントは、今年で5回目を迎える盆踊り大会です。3回目まではザビエル公園で開催していましたが、昨春、近くに大型ショッピングモールが開店



したため、お店の協力を得て、イベント広場をお借りし2年連続して盛大に開催することができました。

5月から校区役員、各種団体、民生・児童委員会などが何度も会議を重ね、また盆踊りの練習も子ども育成クラブと一緒に4回おこない本番に備えました。2年目の今年は、浴衣の親子づれが多く、20店の模擬店も大変人気を集めました。校区事業にあまり参加しない人も大勢来られたようですが、お店からも集客に協力してくれたと感謝されました。

来年からも皆さんの協力で盆踊り大会が続くことを願っています。

広報にしき

錦校区 板垣 清幸



民生・児童委員になると同時に福祉委員会の広報部員としての活動も始まり、年2回7月と12月に「広報にしき」を発行しています。福祉ボランティア、錦小学校、こどものぼほも会、殿馬場中学校、各種団体、自治会のようす、体育行事などの活

動を紹介するため企画、レイアウト、校正などの編集作業や仕分けなどを部員10名前後で行なっています。

IT時代になり、今では原稿用紙はあまり必要でなく、写真などはスマホでできあがります。少し寂しい気もしますが、便利な面もあります。アナログ世代の私、少しでも乗り遅れないようついていきたいです。

子育てサロン「たんぽぽ」

南八下校区 中河 昭子

古くから農業が栄える南八下校区には、今も田畑が豊かに広がる一方、住宅地への転換が進み、若い方の世帯もどんどん増えています。

育児真っ最中の親子が孤立することなく、地域のお友達をつくり、地域のことも知っていただくため、当校区では月1回、子育てふれあいサロン「たんぽぽ」を実施しています。

季節に沿う行事も取り入れ、夏に水遊び、秋はふれあい農園でお芋掘りもしました。

ひと時でも土に触れ、収穫の喜びを感じ、親子で笑顔になってもらうことが大切であると考えます。



校区めぐり

校区の取り組み

八下西校区 久保 恵美



八下西校区では、民生・児童委員としてさまざまな行事に参加しています。

いきいきサロンや八下西校区の連合運動会、そして11月に行われる“第4回ちびっこ集まれ!!”の手伝い。

南八下中学校では、3年間をかけて《いのちの授業》を学んでいるそうです。最近、赤ちゃんとふれあうことなくお母さんになる人が増えているなか、この《いのちの授業》で、地域に住む方が赤ちゃんを連れて参加してくださいませ。おかげで中学生が赤ちゃんとふれあひを通して、いのちの大切さや、他者への思いやりを育むことができるのだと感じています。

また、お元気ですか訪問を実施しています。

八下西校区民生・児童委員会では報告しあいながら、いろんなことを解決しています。積極的に地域の方々と関わっていくことを心がけて、これからも明るく元気に活動していきます。

石津っ子クラブ

浜寺石津校区 坂口 恵美子

地域の宝である子どもを地域で育てようと、今年の7月から小中学生を対象に「石津っ子クラブ」を立ち上げました。週1回放課後に西地域コミュニティホールで学習支援、読書、ゲームなどで子どもと大人が一緒に過ごしています。

この取り組みに民生・児童委員も協力しています。

現在、登録児童数は40名を超え、毎回20数名の子どもが参加しています。

マンネリ化しない工夫やボランティアの確保など、いろいろな課題があります。



変わりゆくまちの顔

浜寺校区 赤堀 仁美

まちの顔とも言える諏訪ノ森駅前、南海本線の高架工事とそれに伴う駅前の整備事業のため、あちらこちらがフェンスに覆われ、長く工事が続いています。

建物が取り壊されたり、道路が拡張されたり、少しずつ新しい景色に変わりつつある一方で、2019年に築100年を迎える諏訪ノ



森駅舎は、変わらぬ佇まいで人々の生活を見守っています。

大正ロマンと現代がどのように調和していくのか…ワクワクが止まらない浜寺校区です。

寺子屋喫茶で
学びあう

八田荘西校区 福原 日出雄

八田荘西校区は2,845世帯、高齢化率30.8%です。5町会で個別にボランティア喫茶を開催し、民生・児童委員全員が携わっているのが特徴です。

その中で鈴の宮喫茶では土曜8時半～12時まで開店。大人と子どもが来店し、10時から大人が宿題や鉛筆画、折り紙、将棋などを教え、時には外でのグラウンドゴルフを子どもと対戦し、交流をしています。

ここは大人と子どもが趣味や運動、勉強と一緒に学びあっているのが特徴です。にぎやかですよ!



校区めぐり

校区活動

八田荘校区 日野谷 繁之

八田荘校区では福祉委員会主催で年2回、春と秋に70歳以上のひとり暮らしの方を対象に食事会「こちょうらの会」を開催しています。当初は民生・児童委員が主体で行なっていましたが、今はボランティアの方にもお手伝いしていただいています。この春の開催で36回になります。年2回なので18年前からの開催になります。

その頃、介護保険制度施行や地域コミュニティの活動が始まった時です。将来を見据え、その時の委員長がボランティア団体などを立ち上げられました。その先輩方の思いを大切にこれからも無理をせず継続して行きたいと思います。



あしたばビューロー

福泉中央校区 家本 遼子

校区では、子育てサロン、お元気ですか訪問活動、あしたばビューロー、子どもの見守り活動などを行っています。特にあしたばビューローでは毎年1月に「おぜんざいの会」を開催し、地域の

方々を招待して、ぜんざいを振る舞っています。

更生保護女性会と民生・児童委員会のメンバーで、早朝よりお餅を作ることから始めます。お年寄り、子どもやお母さんたちなど多くの方が集い、ぜんざいを食べながら楽しくひとときを過ごしています。「美味しかった」「ありがとう」と言っていただき、スタッフも大変喜んでいます。



赤坂台校区めぐり

赤坂台校区 四谷 任

昭和60年4月1日に赤坂台校区民生・児童委員会が設立されて以来、設立にかかわった佐藤祐弘先生(赤坂台保育園=現赤坂台こども園の前園長)の考えを基本的には踏襲して現在に至っています。その考え方の根本は“地域を寝るだけの場所にしてはいけない”というものです。

赤坂台では福祉協議会、連合自治会、民生・児童委員会がお互いに独立しかつ深い連携を保ちながらそれぞれの役割を果たしています。写真は毎年行っている福祉バザーのようすです。今年は赤坂台出身の沢口靖子さん提供の衣服を含め

て、多くの提供品を地域の協力のお陰で集めることができましたが、残念ながら台風の影響で中止になってしまいました。



にぎやかに楽しく!!

新檜尾台校区 川中 則彦

泉北線光明池駅の北側に位置するわが校区は、緑豊かで閑静な住宅街です。この町での民生・児童委員活動は、お元気ですか訪問、いきいきサロンをはじめ、地域の活動に積極的に参加して“にぎやかに楽しく!!”をモットーに実践しています。

世代間交流の夏祭りである「新檜尾台サマーフェスタ2017」では設営準備や模擬店として参加しています。小学校のウインターフェスティバルでは、昔遊びを子どもたちと一緒に楽しんでいます。

今年は、夏休みに初めてラジオ体操を校区全体で取り組み、来年以降拡大していくことを検討しています。



校区めぐり

つながりを大切に

東浅香山校区 久保 茂

私たちの東浅香山校区は、5,400世帯、11,783人が暮らしています。その中で65歳以上の人は約3,100人で950の方がおひとり暮らしをしておられます。

「お元気ですか訪問」などの見守り活動を推進し、また比較的高齢化率が高くなっていますので、校区福祉委員会では、閉じこもりを防ぐため「ふれあい喫茶」や「カラオケ教室」などを開催しています。

地域の人と人のつながりを大切にした事業として「ふれあい親子フェスティバル」や「高齢者お楽しみ会」などを開催しており、民生・児童委員会もこれらの事業に参画し、地域の人への寄り添いを大切にした活動をしています。



見守り隊に参加して

東三国丘校区 西川 義和

東三国丘校区では、子どもの通学路での安全・安心の取り組み活動の状況を地域の方、PTA、保護者に知ってもらい、登下校時に子どもが悲しい事故に遇うことのないよう

に、学校と一緒に取り組んでいます。

交差点や通学路に立って学校へ通う児童に「おはよう」と声をかけると、こだまするように元気な「おはよう」という声が身体全体に入ってきます。

小学生だった児童が立派な成人となり「いつもありがとう」と声をかけてくれる喜びと、これからも子どもの元気な姿を見続けられるように、今日も通学路に立っています。

活動への取り組み

美原西校区 松本 慶子

私たち児童福祉委員14名は、日々の活動のほか次の行事にそれぞれ参加しています。

- 学童の登下校時の見守り
- 子育てサロン「かるがも親子応援隊」
- 区内3中学校と保健センターが連携して取り組んでいる「いのちの授業」
- 5～11カ月児のBCG予防接種後の保護者の歯科検診時間帯に預かる乳幼児の見守り
- 子育て支援「こども家庭フォーラム」
- 子育てネットワーク会議
- 美原西小学校5年生の「認知症キッズサポーター養成講座」

例えば通学路の見守りは、児童の様子の変化に気付き、声かけに注意を払い、もとの様子に戻ってくれたときはほっとし、笑顔に元気を

もらっています。

いのちの授業では生徒が、泣いたり笑ったりする赤ちゃんを、保護者のアドバイスであやしたり、抱っこしたりして、その表情は、本当に微笑ましいです。

私たちは、それぞれの場面で出会う子どもたちへ、慈しみの心で見守り・ふれあい、活動を続けていきたいと思っています。

黒山小学校

黒山校区 上野 麻子



黒山小学校は上黒山・下黒山・阿弥・南余部の四地域の子どもたちが通っています。明治5年に学制の発布がなされ、その翌年の10月に創立しました。

最近では総合的な学力の育成のためいろいろな取り組みをしています。一組一人の担任ではなく、学年の先生方で学年の子どもたちを指導する取り組み、そして地域の方の協力をいただいで地域で育てる活動があります。

周辺に住む私たちにとって身近に感じますのは、放課後学習のお手伝い、共にする昔遊びや、おじさんたちの見守り隊です。幅広い世代が関わってくださっています。

地域における民生委員活動

総務委員会報告

5月の委員長会の後、総務委員会を開催。第22回堺市民生委員児童委員・民生委員制度創設100周年記念を迎える大会当日の受付並びに運営について委員で情報交換をおこないました。

第1部は例年どおりの式典。第2部の記念講演では「地域共生社会に向けた明るい未来を」をテーマに、女優・戸板女子短期大学客員教授 菊池桃子氏の子育てを中心とした体験話。

民生・児童委員は地域活動を通じて特に社会的弱者といわれる高齢者・子どもなどへの細やかな支援をおこない、複雑多様な諸問題に対し、地域全体で今後もより一層の連帯関係を深めていきます。

(委員長 小猿 克義)

○講義：テーマ「高齢者の社会的孤立予防に向けた地域見守りを考える」

講師：大阪市立大学医学部看護学科

准教授 金谷 志子氏

○事例発表：「みんなの地域づくり～それぞれの強みを活かして～」

発表者：堺市社会福祉協議会

地域福祉課 下田 丈太氏



第2回委員会報告

研修・広報委員会報告

8月29日、今年度第2回委員会を開催しました。

主な議題は、①委員長研修会について ②みんじれん堺第61号特集記事の内容について。

①委員長研修会は、9月29日(金)午後2時～

ホテル・アゴーラリージェンシー堺で開催。

研修内容は、

○講義：テーマ「LGBTについて」

同性愛者のレズビアン(L)やゲイ(G)、両性愛者のバイセクシュアル(B)、心と体の性が一致しないトランスジェンダー(T)といった性的少数者の総称。

講師：堺市人権推進課 主査 長島 良典氏

○グループ討議

委員長研修会・交流会出席者数は、下記のとおりで、交流会では、行政・社協の関係者との交流を深めることができた。

民生・児童委員

研修会 84名

②みんじれん堺第61号特集記事の内容については、「委員長に聞く民生委員制度創設100周年」をテーマとして、全委員長にアンケートを実施しました。

(副委員長 南埜 昌市)

皆さんの自由投稿 お待ちしています

エッセイ、川柳、短歌、俳句、など日常の感慨や貴重な体験談を、また民生委員児童委員連合会にたいするご意見やご質問などお寄せください。

みんじれん堺 編集委員会



学びと繋がり

金岡南校区
山地 眞

民生・児童委員を
受けて早や10年。

この間、さまざまありましたが、多くは仲間とともに楽しみ、勉強になったことが多いです。いろいろ言いたいですが、2点だけ書かせていただきます。

ひとつめは研修や講座などです。機会あるごとに積極的に参加し、私自身の勉強になりました。大切なのは私一人が得るのではなく、本当は地域住民の方に聴いてほしいと思い、社協・包括・行政関係の協力を得て担当地区の集会室で講習・研修をおこない、毎回30～40名参加いただいています。私自身は生涯学習の気持ちでこれからも研修・講座を受けたいと思っています。

ふたつめは私の担当地区は250世帯のマンションで、高齢者を中心に定期的に訪問調査を行っています。中には「民生委員て何や?」「個人情報は何も言えません」と言われる方もおられます。(ほぼ95%の状況を把握しています。)

日頃、道で会って名前は思い出せない住民から「こんにちは」「いつもお世話になっています」と声をかけてくださるのが何よりうれしく、つながりが大切と感じています。

素敵な先生との思い出

安井校区 門田 良重

民生・児童委員をしていたおかげで、4年前の春、ひとりの素敵な女性との出会いがありました。彼女は習字の先生。初めは数人で月一回、ボランティアで教えていただくことになりました。

先生のご指導法は『ほめてのばす』です。「よかねえ、元気でのびのびした字」「個性があって味のある字やね」等々。年を重ねるとほめてもらえることが少ないのでとってもいい気分!

練習の後は、もうひとつのお楽しみ、お茶タイムです。先生を囲んでピーチク、パーチク、おしゃべりの中でいろんな情報、知恵、知識を得ました。先生も「転居が多かったので地域に気楽に話せるご近所さんがいなかったけれど、皆さんとお知り合いになれてよかった。地域で頑張っている皆さんに喜んでもらえてうれしいわ」とお稽古を楽しみにしてくださっていたようです。

しかし、今年の6月に帰らぬ人となりました。先生は私たちと出会った時点で、余命半年と宣告されていたのです。現実を受けとめ、つらい治療にも耐え、それでもなお明るく生きたお姿、そしてやさしいお声に笑顔。先生のことはずっと忘れません。ありがとうございました。

これからも先生をお手本に、民生・児童委員として地域の皆様に喜んでいただけるよう頑張っていきたいと思う毎日です。

みんちゃんファミリー

作 おおぐらN
画 なんぼN



市校区

